

# 私立 昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部

## 緊急課題への対応と実社会連携型キャリアビジョン育成プログラム

取組期間	2009(平成21)年度～2011(平成23)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7
設置者	学校法人 昭和女子大学

### 取組内容とその成果

#### プログラムの目的及び内容

学生が経済・雇用情勢の急変に翻弄され疲弊することを予防・軽減するため、適切な情報提供と援助体制を整備して、自己実現に向けた就職活動を支援する。また、従来培った教育システムやOGデータの整備、活用によりOG交流会等を開催し、女性ロールモデルによるキャリア教育を推進する。学生は実社会の様々な状況を知ることで自己のキャリアビジョンを育み、社会性を涵養して学士力を確保するとともに、就職支援を受けて就職を決定する。

#### 到達目標

本取組は、内定取消等の学生の被害救済に道筋を付けるとともに、未内定者へ迅速に就職情報を提供する仕組みを構築し、早期に内定を獲得できるように就職力をアップさせ、就職率の向上を図る。また学生がOGとの交流や各種キャリア支援プログラムを通じて社会との繋がりを認識しながら勉学に励み、将来のキャリア形成に向けて能動的に学生生活に取り組むことで、ニート予備軍ゼロを目指す。施策毎の達成目標は次のとおり。

- ① 多くの求人情報を学生にタイムリーに周知するシステムを導入、同システムの活用を促進し、就職率の向上を図る。
- ② OGロールモデル等の外部講師を授業に招聘するなど、学生との交流プログラムを実現し、キャリア教育の実を上げる。
- ③ 相談体制の量的充実、また、厳しい就職戦線で疲弊する就職活動年次の学生の心のケアを行い、学生支援の質的充実を図る。また求人情報を収集し、テレホンポイントによる求人開拓を行い、求人獲得の拡大を図る。
- ④ 企業人、学生及び教職員の情報交換を通じ、学生の実社会との能動的関わりを高める。

- ⑤ キャリア支援プログラムを実施し、就職スキルの向上を図り、学生の就職力をアップする。
- ⑥ 学科の専門性に対応した就職意識の向上を図り、学生の専門分野への就職を強化する。
- ⑦ 全学共通キャリア科目を導入し、専門科目、他の一般教養科目を含めて見直しを行い、体系立てたキャリア科目を作る。
- ⑧ 学生支援推進事業報告書の作成と効果的な公表を行う。また、キャリア開発、就職支援全般に関する取組について、トピックスを含めた情報誌(キャリアサポート通信「リュミエール」)を作成し、全学生・教職員に配布してキャリアに関する情報共有化を図る。

#### プログラムの実施内容

プログラムの具体的内容は次のとおり。実施ポイントとしては、求人情報検索システムを導入し活用を図るとともに、気軽に就職相談できる窓口を用意し、専門カウンセラーを配置して、緊急課題を抱えた学生の支援体制を整備し、迅速に対応した。また、卒業生を活用したOG交流会等を開催し、アサーションやキャリア支援講座で学生に自信と意欲を与え、実社会連携型キャリアビジョン育成プログラムを推進した。企業との交流機会を増やし、国内外インターンシップ先を開拓するなど、学生のキャリア支援体制を強化した。さらに、体系立てた全学共通キャリア科目を構築した。本取組では、教員で構成するキャリア支援部委員会において進捗状況を確認し、必要な場合は修正を加える等、緊急課題に対応する柔軟な体制を確保した。本取組は実施状況報告等をHPで公表し、事務はキャリア支援センターが担当した。

#### プログラムの成果

### 1. 当該プログラムの周知方法等

当該プログラムの実施にあたっては、プログラム毎に次のとおり学生等への周知徹底を図った。なお、全体計画に関しては、各学科委員から成る既存の全学組織であるキャリア支援部委員会において説明し、教員組織への周知を図った。

①求人情報検索システムの導入・開発にあたっては、当該システムのポータルサイト（以下、「求人NAVI」）への登録と利用案内を全学ポータルサイト（以下、「UP SHOWA」）を通じて全学生に周知するとともに、特に就職活動年次の学生には各学科へポスターを掲示した。さらに、キャリア支援部委員を通じて、各学科のクラスアドバイザーから説明し、周知徹底を図った。なお、これらの周知方法に加え、次年度から、全学生に配布するガイドブックに掲載するとともに、就職ガイダンスで詳細に説明している。

②OG データ整備・活用については、同窓会事務局と就職担当事務部署であるキャリア支援センターが連携し、過去10年間のOGデータの住所情報と照合、同データを更新し、勤務状況等調査を実施した。なお、回答のあったOGデータについては、個人情報管理基準に則り同窓会事務局にフィードバックし共有するとともに、キャリア支援部委員会に報告し承認を得た。

③専門カウンセラー配置による相談体制の拡充に関しては、「求人NAVI」から相談予約できるシステムを構築するとともに、「求人NAVI」を使って周知し、学生への利用促進を図った。また、求人情報を収集しテレホンポイントによる求人開拓を行い、求人獲得の拡大を行い「求人NAVI」を使って学生に周知した。

④産学情報交換・交流会の開催に関しては、インターンシップの受入企業、過去2年間に採用実績2名以上の企業を中心に、約250社に案内状を送付した。学内には、学長、副学長、学部長、学科長およびキャリア支援部委員等の役職者に周知した。また、当該プログラムに参加するインターンシップ受入企業で就業体験を行った学生に参加を促し、交流を図った。なお、当該プログラムの進行は、就職・キャリア開発に関するイベントを企画・運営する学生有志グループ（光葉キャリア塾）が担当し、学生新聞へ記事を掲載した。

⑤就職スキルアップ講座の実施にあたっては、全学生へ就職活動支援講座一覧表を紙ベースで配布す

るとともに、就職活動年次生に「求人NAVI」のお知らせ機能、メール配信機能を使って各講座の実施日程に応じてタイムリーに通知した。

⑥学科主催キャリア支援講座の実施については、各学科のクラスアドバイザーから定例クラスミーティングでの説明、ポスター掲示及びメール配信により周知を徹底した。

⑦全学共通キャリア・コア科目の導入に関しては、新学期初めの学長講話等の機会を利用し「キャリアサポートシステム」資料に明記し全学生へ配布するとともに、その目的及び内容について説明を行った。

⑧学生支援推進事業報告書の作成については、予算の関係から学内にて作成し、ホームページにて公開した。また、キャリア開発、就職支援全般に関する取組について、トピックスを含めた情報誌（キャリアサポート通信「リュミエール」）を作成し、全学生・教職員に配布してキャリアに関する情報共有化を図った。

### 2. 当該プログラムの成果

各プログラムの自己評価の観点、目標達成の度合い及び具体的成果は次のとおりである。

①求人検索情報サイトの新規導入、開発に関しては、就職年次学生と同サイトへの登録率、求人掲載件数、就職活動支援講座申込件数、進路登録件数等の利用状況を数量的に把握し自己評価した。その結果、いずれも同システム導入以前に比較して増加したことが確認できた。これらが主因となり、就職率は過去3年間全国平均を上回り成果が上がった。

②OG データ整備・活用においては、同窓会事務局との連携を図り、まず過去10年のOGの住所データを更新し文書にて勤務先、役職等の調査を行った。これにより現時点のOGの就業状況が把握できた。このことにより本事業プログラムであるキャリア・コア科目にOG実務家を招聘することが容易になるなど、効果的な活用に繋がった。

③就職支援とキャリア形成に専門知識と経験を持つ専門カウンセラーを1ないし2名配置したことにより、特に就職活動年次生の相談の質と量の充実を図ることができた。相談件数は、専門カウンセラーの導入後、2009（平成21）年度2,455件、2010（平成22）年度3,236件、2011（平成23）年度4,337件と大きく増加した。これにより3年連続、全国平均以上の就職率が実現できたと評価する。さらに求人情

報を収集しテレホンポイントによる求人開拓を行い求人獲得の拡大を図り、この取組によって就職内定の成果が得られた。

④年1回の産学情報交換・懇談会の開催は本学の教育方針、人材育成方針を広く産業界にPRする絶好の機会であり、採用実績のある企業と太いパイプを築く貴重な機会である。採用意欲のある企業の採用担当者と学生及び本学役職者が一堂に会し交流を継続し、参加者が情報交換を通じて刺激を受ける成果は大きい。2011(平成23)年度の参加者数は企業67社85人、本学教職員39人、学生25人、合計149名が交流を持った。

⑤面接対策講座など就職活動に必要なスキルアップ講座を3か年で40講座開設し、学生に提供した。この講座に延べ5,332人の学生が参加した。受講した学生のアンケート調査による満足度は、5段階評定で最低4.2ポイント、4段階評定の最低ポイントは3.55と高く、質量ともに学生に就職スキルの底上げに寄与したものと評価する。

⑥学科主催キャリア支援講座に関しては、各学科の専門性の特性に応じたプログラムが展開され、また、カリキュラムに定めた宿泊研修期間を利用して行うなど、原則、学科対象者全員に提供できた点において成果が認められる。

⑦全学共通キャリア・コア科目の受講者実人数は、2009(平成21)年度57人(非単位科目)、2010(平成22)年度426人(単位科目)、2011(平成23)年度471人(一部選択必修単位科目)と、年々履修学生数が増加した。必修化に向けてカリキュラム改善が図られ、既設のキャリア系の全学必修科目「実践倫理」の受講と相まって、全学共通キャリア科目体系が発展したものと評価する。

⑧学生支援推進事業報告書は、データのための資料として内部作成しHPで公開した。印刷物での学内外への送付に比べて反響が少なく、その点、十分効果を上げたとは言えない側面もある。また、情報誌(「リュミエール」)を作成し、全学生・教職員に配布することにより、キャリアや就職に関する学生・OGの実体験や意見等の共有が図られ、就職支援講座への参加率が向上するなど学生のキャリア意識が高まった。また、産学情報交換・交流会に参加した企業やインターンシップの受け入れ企業等に配布し、本取組について積極的に紹介した。

## 今後の計画

### 1. 当該プログラムの成果をどのように活用していくか

当該プログラムは原則として全施策とも継続していくことを基本としている。就職観において多様な考えを持つ学生が入学する現況に鑑み、実社会との連携を見据えたキャリア支援、就職支援の有効性を当該プログラムによって検証できたことの意義は高く、特にOGや企業との交流プログラムを、より充実したものにしていきたいと考える。また、新規導入した求人情報検索サイトはIT活用により便利で多機能なサービスが有効であるが、反面、学生と直接関わる機会が少なくなるマイナス面をカバーするように、補完策を講じて活用していきたい。この点、専門カウンセラーの常時配置は、就職活動で不安を覚え、精神的に困憊した学生のケアに有効である。当該成果の活用にあたっては、クラスアドバイザーや学生相談室との連携も密に行っていくこととする。

これらの成果は、主に従前の就職支援プログラムの見直し及び改善によってもたらされたものとの観点から、今後の遂行にあたっては、経年実施によるマンネリ化を防止することが肝要と考え、PDCAサイクルによる実施を強化したい。

当該プログラムの工夫、活用により、学生が早期に実社会と触れ合い、自己の学びに意義を見出して努力、成長し社会人となった後には後輩に還元する仕組みに発展させ、当該成果を活用したいと考える。

### 2. 今後の計画

各プログラムの具体的な計画は次のとおりである。

①求人情報検索システムの導入・開発については、活動体験報告書等のデータの蓄積とその学生への還元、活用策の向上に取り組む。

②OGデータ整備・活用に関しては、今後3年ごとに就業状況調査を行い、データの蓄積、更新を行い、生きたデータとして管理する。併せて、個人情報管理基準に留意し、同窓会、学部学科と情報を共有し、OG人材の活用を図る。

③専門カウンセラー配置に関しては、学生の相談体制の拡充と併せて、就職支援部署であるキャリア支援センター職員の相談スキルの向上に資するよう、専門カウンセラーとの勉強会を設けるなど、継続して学生相談体制の充実に努める。

④産学情報交換・交流会開催に関しては、インター

ンシップ受入企業の開拓、継続のための重要な戦術として位置付ける。

⑤就職スキルアップ講座の実施にあたっては、ワークショップメニューを加える方向でカリキュラムを改善する。

⑥学科主催キャリア支援講座の実施にあたっては、学科の専門性、独自性に沿った内容に工夫するとともに、各学科間で情報を共有し優れた取組の拡充を目指す。

⑦全学共通キャリア科目に関しては、教員組織によるカリキュラム検討委員会の検証体制に織り込み、管理する。

⑧学生支援推進事業の内容は随時作成し HP で公表する。

以上、今後の計画の実施体制としては、既存の全学組織のキャリア支援部委員会において年度計画に織り込み、事務局機能は引き続き事務部門のキャリア支援センターが担当する。

就業支援事業プログラム等の情報を郵送した。

## 2. 未内定のまま卒業した者への支援策

イ) 卒業後も、学科担当の就職支援担当職員が在学時同様の支援を行う旨の文書の発送と、支援を実行した。また、就職が決まるまで支援する旨のメッセージを学生、保護者に発信した。

ロ) 本学独自の求人サイトにおける、卒業生向けの求人情報の検索方法を周知した。

ハ) 上記求人サイトのメール配信機能を使い、個別に求人情報を担当職員から発信した。

ニ) 卒業年次を問わず、卒業生の転職、就職相談担当職員を配置し、月～土曜まで相談体制を確立した。

ホ) 定期的に担当職員が電話、メール等で連絡をとり、就職活動状況を確認するとともに、いつでも相談に応じることを伝え励ました。

## 就職未内定者への支援策

### 1. 内定（内々定）のピークを過ぎても内定（内々定）を得られない者への支援策具体的に次のとおり支援策を実施した。

イ) 学内合同企業説明会の追加開催：2011(平成23)年度は、5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月、2月と毎月実施し、延べ、参加企業199社、参加学生396人であった。

ロ) 10月以降、学科ごとに就職支援担当職員を割り振り、未内定（未内々定）学生を継続的に支援する態勢をとり、支援した。担当職員から学生に連絡をとり状況を把握し、希望する職種等へ内定するための相談指導に力を注いだ。

ハ) 新卒応援ハローワーク・ジョブサポーターに支援を要請し、学内での支援講座を実施した。

ニ) 就職フォローアップ講座を実施し、学生の不安を和らげるとともに、求人企業の探し方、求人票の見方、履歴書の書き方など就職活動の仕方に関し支援した。

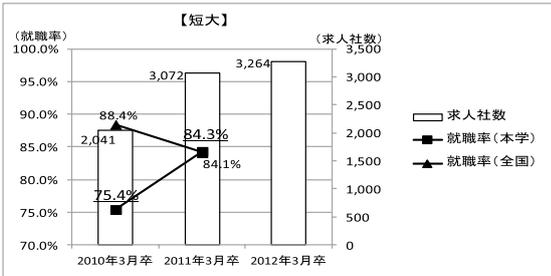
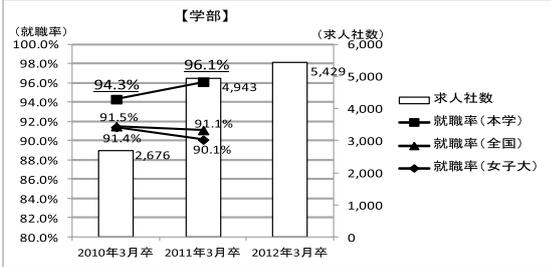
ホ) 連絡がなかなか取れない学生に関しては、保護者に連絡し協力してもらった。

ヘ) クラスアドバイザー、ゼミ担当教員と連絡を取り合い、特に支援が必要な学生について確認を行った。

ト) 保護者・学生宛てに、求人情報や国の若年者

# 資 料

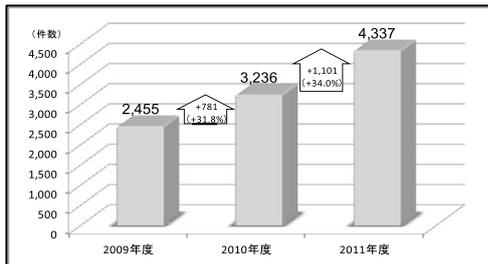
## ① 求人検索サイト「求人 NAVI」導入による求人数・就職率の推移



## ② 「求人 NAVI」トップ画面



## ③ 面談件数



## ④ 産学情報交換・懇談会

### 昭和女子大学「産学情報交換・懇談会」プログラム

2011年11月15日(火)	
15:00~	<b>受付</b> 会場入口の受付にて御名刺を頂戴いたします。
<b>〈第Ⅰ部〉 学園本館3階 大会議室</b>	
15:30~15:35	<b>挨拶(学長 坂東 真理子)</b> ・ 本学の教育理念と人材育成方針
15:35~15:40	<b>キャリア支援体制について(キャリア支援部長 増澤史子)</b>
15:40~15:45	<b>インターンシップ・就職状況報告(キャリア支援センター長 森島空男)</b>
15:45~16:30	<b>インターンシップ事例報告</b> ・ 株式会社エーピーシー商会 総務部人材開発担当 原田 恵 様 ・ 学生代表2名(フェデラルエクスプレス様・株式会社イーキ様にて実習体験)
16:30~16:40	<b>休憩・会場移動</b>
<b>〈第Ⅱ部〉 学園本館3階 中会議室</b>	
16:40~18:00	<b>懇談会</b> ※軽食をご用意させていただきます。 ・ 挨拶(理事長 平尾 光司) ・ 来賓挨拶(株式会社イーキ 東京中央支社教育施設支店長 吉田武司 様) ・ 御礼の言葉(キャリア支援部長 増澤 史子)
第Ⅲ部「フランチ・リスト室内管弦楽団」鑑賞ご希望の方は会場へご案内いたします。	
<b>〈第Ⅲ部〉 本学「人見記念講堂(2階席)」</b>	
18:15~20:00	<b>フランチ・リスト室内管弦楽団</b> ※本公演は本学学生向けの文化研究講座(正規授業)です。ご希望の方は2階席にてご鑑賞いただけます。 ハンガリーが生んだ大作曲家の名を冠するフランチ・リスト室内管弦楽団は、1963年に名門フランチ・リスト音楽院の同窓生によって創立。今回はリスト生誕200年を記念した曲目を中心に、我が国が誇るリストの名手達が花を添える演奏会。 (曲目)リスト:ラ・カンパネラ、ハンガリー狂詩曲第2番 モーツァルト:ディヴェルティメント クライスラーの小品 他
備考: 司会は学生が担当いたします。また第Ⅱ部懇談会においては本学教職員・学生有志(「光葉キャリア塾生」)・インターンシップ参加学生が参加いたします。 以上	

## ⑤ スキルアップ講座

### 【平成21年度】

開催日	講座名	参加者数	アンケート評価		
1	10/27	業界研究講座	141	4.26	*評価5段階
2	10/28	業界研究講座	136	2.97	*評価5段階
3	10/29	業界研究講座	126	4.38	*評価5段階
4	10/30	業界研究講座	99	4.28	*評価5段階
5	11/05	業界研究講座	92	4.86	*評価5段階
6	11/11	ビジネスマナー講座	192	3.92	
7	11/18	就職支援プログラム講座	13	4.00	
8	12/02	プレゼンテーション講座	82	3.97	
9	12/03	就職支援プログラム講座	31	3.71	
10	12/09	プレゼンテーション講座	262	3.92	
11	12/11	グループディスカッション対策講座	24	3.91	
12	12/12	グループディスカッション対策講座	97	3.94	
13	01/28	グループディスカッション対策講座	58	3.62	
14	01/29	グループディスカッション対策講座	13	4.00	
15	02/12	筆記試験対策講座	106	(未実施)	
16	02/13	筆記試験対策講座	65	(未実施)	
17	02/15	ビジネスマナー講座	40	3.84	
18	02/25	グループディスカッション対策講座	86	3.97	

延べ参加者数: 1,663

### 【平成22年度】

開催日	講座名	参加者数	評価	
19	07/29	光葉キャリア塾+講演	104	—
20	08/04-06	基礎学力養成講座	536	—
21	11/30	就職活動マナー講座	226	3.90
22	12/02	就職活動全体のマナー講座	101	3.62
23	12/06	自己PRプレゼンテーション講座	215	3.88
24	12/11	グループワークディスカッション講座	77	3.91
25	12/21	自己PR対策ガイダンス	139	3.79
26	02/15	就職対策講座(全4回、1-2回)	30	3.55
27	02/16	グループワークディスカッション講座	62	3.69
28	02/22	就職対策講座(全4回、3-4回)	22	3.71

延べ参加者数: 1,512

### 【平成23年度】

開催日	講座名	参加者数	評価	
29	07/26-29	基礎学力養成講座	529	—
30	07/27	就活スタートアップセミナー	69	—
31	10/14	自己分析講座	148	4.4
32	10/19	履歴書の書き方	260	4.3
33	10/21	履歴書の書き方	151	4.2
34	10/26	エントリーシートの書き方	129	4.3
35	10/28	エントリーシートの書き方	134	4.2
36	11/16	マナー講座	146	3.8
37	11/18	マナー講座	126	3.9
38	11/25	印象力アップ	130	3.9
39	11/30	印象力アップ	194	3.8
40	02/21-23	就職対策講座	141	3.9

延べ参加者数: 2,157

3年間延べ参加者総計: 5,332

⑥学科キャリア支援講座

【平成 21 年度】

学科	学科主催就職支援プログラム	実施内容	実施日
英語コミュニケーション	英コミキャリアプランニング特別講義	英コミの専門科目として前期に開講している『キャリアプランニング』の特別講義として、後期に2回実施。幅広い業種から講師を招き、学生たちにより多くの情報提供をおこなった。	11月・12月
歴史文化	歴史文化学科主催特別講義	博物館あるいは文化財保護に関係する職業に就いている外部の講師あるいは本科卒業生を招いて、仕事の実態についての講演を依頼。	3月
歴史文化	OGガイダンス	卒業生または卒業年次生に就職活動での体験、採用の経過等の体験談を発表。	2月～3月
心理	就職・進路OGガイダンス	社会人・大学院生として活躍する心理学科卒業生を招き、進路選択・就職活動、心理学科で学んだことを現在どう活かしているかという点についての講演。在学生のキャリアイベントに必須な自己理解や社会理解を促す機会とする。	2月
現代教養	卒業生とキャリアについて一緒に考える「足跡つなごうCLA-聞かせて先輩！」	OGを招き、就職に向けた学生生活、心構え、就職活動、卒業後の状況等について聞き、卒業生とともにキャリアについて一緒に考える。今後の在学生へのキャリア支援に活かす。秋祭祭時にはミニ会社説明会を実施。	10月～2月
生活科学	卒業生からのメッセージ	卒業した先輩卒業生を招き、卒業生業務内容説明、学生時代の過ごし方、就職活動についてもアドバイスを発表。最後にラウンドテーブル形式と懇親会形式で個別の相談も受け付けを実施した。在学生に自分の将来を具体的に考えさせる機会を得た。	12月
文化創造	OGガイダンス	社会で活躍する文化創造学科の卒業生を招き講演を実施した。先輩からの生の体験談を聞くことで、在学生は大いに刺激を受け、就職活動へのモチベーションアップにつながった。	3月
文化創造	イメージ&センスアップ講座	会津キャンパス村での合宿により社会人になって必要とされる礼儀作法・挨拶・言葉遣い・振る舞いについて集中講義形式で実施。	11月

【平成 22 年度】

学科	学科主催就職支援プログラム	実施内容	実施日
日本語日本文	マナー&ウオーキング講座	学業研修中に進路支援講座の一環として実施。就職活動に対するマナー、話し方、態度、姿勢(立ち姿、歩き方)等将来構想を視野に入つつ、就職活動に役立つ内容とした。	6月
英語コミュニケーション	就活エントリーシート対策講座	就活の際にエントリーシート作成の核となる「自己PR」、「志望動機」の効果的な書き方を学んだ。	10月
英語コミュニケーション	キャリアプランニング特別講座	老舗のホテルの仕事を通して、実際の現場での必要とされる「ホスピタリティ」とは何かを学んだ。	2月
歴史文化	卒業生のキャリア実態調査	今年で学科設立20周年となる。歴史文化学科を卒業生に対してアンケートを実施した。アンケートを通して、現在就いている職業の意識調査を実施することにより、学科の特性以外の仕事に就いている卒業生の職業観を把握し今後の進路指導に役立てることを目的に実施。	11月
心理	「心理・学習支援コミュニティサービスラーニング(CSL)」成果発表会	「心理支援コミュニティサービスラーニング」および「学習支援コミュニティサービスラーニング」授業の成果発表会を実施する。履修学生の体験を発表し、教育委員会の現場における担当者による助言を得ることにより、多くの気づきを得ることができた。	7月
福祉環境	先輩の話を聞く会	卒業生の報告会を実施。職場での仕事の説明、就職準備でやっていた方が良いこと、仕事のやりがい等について意見発表を実施した。企業系、福祉系、公務員系の先輩であったが、共通していきいきと仕事をしていることが伝わる内容であった。	10月
現代教養	就職模擬面接講座	学生参加ごとに個別、あるいは集団で就職の模擬面接を実施。学生の問題意識、業種に応じて面接における留意点、具体的な対応策をその場で説明した。	12月
初等教育	「教師という夢を目指して-未来の自分へ-」シンポジウム	1部シンポジウム・2部講演会。1部は卒業生で小学校・幼稚園・保育士としての方の体験談。2部は世田谷教育委員会の担当者により、講演を実施した。	11月
生活環境	OG懇談会	各コース主催のOG懇談会を開催。在学生(主に3年生)と卒業生との思惑のない懇談の場を設置し進路の決定までの実体験と現状を話してもらい質疑を行った。現在の仕事内容などを具体的に話してもらったことにより、職種についての理解が深まり、就業についての具体的なイメージが持たれることができた。	7月～9月
生活科学	総合職として働く意義	立教大学の渡辺三枝子先生および同大学のキャリアセンター教員を招いて、総合職のやりがい、醍醐味、楽しさを認識してもらい、希望する職業・職種で働くことに意識付けを行った。	10月
文化創造	学業研修における「マナー講座」	学業(会津・東明)時にマナー講座を実施。学外講師を招き、ボイストレーニング、清音、自分を知ること、自己紹介の仕方、ディスカッションや人前での発表、美しい立ち居振る舞いを学んだ。就職活動時の面接に役立てることができた。	5月～7月

【平成 23 年度】

学科	学科主催就職支援プログラム	実施内容	実施日
日本語日本文	教職を目指す学生への実践講座	現職の教員を招き、教職を強く希望している学生に対し、教育の現場や教職に就くにあたっての心構えや具体的な生徒への指導法等体験談を紹介した。	2月
英語コミュニケーション	英コミSPI対策特別講座	学研メディアコム(委託)によるSPI対策特別講座。7月下旬に全学対象のSPI対策講座が開講されるが、その中で特に扱われない非言語・数理解関係の集中対策講義を2回実施する。	7月
英語コミュニケーション	先輩の話を聞く会	各界で活躍する卒業生を招き、就職活動・現在の業務等について話していただき、在学生の将来の指針や就職活動のアドバイスをもらう。全体会・パネルディスカッション・個別ガイダンスの三部構成を実施した。	12月
歴史文化	キャリア支援談話	3年必修授業「歴史文化と社会」において卒業生に談話を依頼。卒業生あるいは外部講師を招き、社会に出る心構えや就職に対する意識の再確認と教職を目指す学生の意識の徹底をはかるために講演を実施した。	6月・2月
国際	留学(中国、韓国、SAF)から帰国する3年生向けのリフレッシュ就活スタート講座	前期に世田谷キャンパスにいない留学中の3年生を対象に、他の3年生が前期に受ける就活セミナー(就職ガイダンス、企業動向の傾向と対策、企業研究、就活基礎、自己PR対策、志望動機・エントリーシート対策、筆記試験対策、筆記模擬試験)のダイジェスト版講座を実施。	9月
心理	学業研修特別授業「キャリア・ディベロップメント」支援I	日本キャリア開発協会から講師を招き、学年に応じたテーマで講義と実習を組み合わせた授業を行う。テーマはそれぞれ、「自己分析と自己理解」(1年生)、「社会人としてのマナーとコミュニケーションスキル」(2年生)、「就職試験での自己PRやグループディスカッション」(3年生)。	12月
福祉社会	社会人育成のためのワークショップ「マナー講座」	有限会社SONORI(委託)による社会人マナーのワークショップを2回実施。	9月18日・10月1日
福祉社会	社会人育成のためのワークショップ「アサーティブ・トレーニング」	非営利活動法人アサーティブジャパン(委託)によるアサーティブネスのワークショップを2回実施。	10月～11月
現代教養	就職模擬面接講座	外部講師を数名招き、学生の希望する職種・業種に応じてのカウンセリングの実施と、個別または集団での就職模擬面接を3回実施した。	12月～2月
初等教育	小学校教諭・幼稚園教諭・保育士のシンポジウム	1部 小学校教諭のシンポジウム「善き教師への道」、2部 幼稚園教諭・保育士のシンポジウム「認定子ども園について」 学校経営について を実施。教諭のやりがい・困難の乗り越え方・理想と現実とのギャップ・大学時代にやっておいてよかったこと、やっておけばよかったこと等を紹介。	11月
生活環境	コース別OG懇談会	コース別に3回実施予定。卒業して数年程度の学生に近い年代の卒業生を招き、就職活動や現在の仕事内容を話していただき、在学生との質疑応答を実施。	7月・9月・10月
健康デザイン	マナー講座	サンリカ DBMマスター キャリアコンサルタントの葛西千鶴子氏を招いて、卒業生実習生として身につけておきたいマナーや医療接客等の講義を実施。	6月
管理栄養	保健所ガイダンス	台東区台東保健所の山田美佐氏を招いて、保険所実習に必要な講義(現場で求められる栄養士像、保険所・保健センターの業務内容、心構え等)を実施。	7月
健康・管理	病院ガイダンス	実際に業務をしている病院管理栄養士より、病院業務の実態や実習前の心構え、諸注意を聞き、病院実習に対するモチベーションを上げることや就職活動対象施設としての見方や対応を知った。学生にとって病院での管理栄養士業務の実態を知る貴重な機会となった。	6月
文化創造	プレゼンテーション ワークショップ	テレビ朝日アナウンサースクール講師を招き、ボイストレーニングを始め、人前での発表の仕方や美しい立ち居振る舞いを学ぶ。	5月～6月

⑦キャリア科目

(1)履修者数

【キャリアデザイン】

年度	前期		後期		合計
	学部	短大	学部	短大	
2009			21		21
2010	75		130	2	207
2011	112		62		174
合計		187		215	402

【女性とキャリア形成】

年度	前期		後期		合計
	学部	短大	学部	短大	
2009					0
2010	88				88
2011	97				97
合計		185		0	185

女性の生き方と社会

年度	前期		後期		合計
	学部	短大	学部	短大	
2009			11		11
2010	19		45	1	65
2011	100		32		132
合計		119		89	208

【企業と社会のルール】

年度	前期		後期		合計
	学部	短大	学部	短大	
2009			25		25
2010			66		66
2011			67	1	68
合計		0		159	159

(2)シラバス

科目名	キャリアデザイン
担当者	井原 泰明、総合教育センター教員、西脇 和彦、首藤 宣弘、野沢 聡子
授業概要	ライフステージに応じたキャリアデザインの重要性を学ぶ。自己理解を進めていく中で、人生観、仕事観等の自分の軸となる考え方を確立し、人生設計をできるようにする。大学生活を主体的におくことができるよう、大学において身につけておくべき能力を学び、レディネス(キャリアを考えるための準備)やエンプロイアビリティ(就職キャリアにつながる能力)を高める。
授業到達目標及びテーマ	次の到達目標を掲げる。 1)自分の将来像を明確に描き、それに沿った長期的、中期的、短期的な目標を立てること 2)目標を実現するために必要な心構え(人生観、仕事観)を身につけること 3)目標を実現するために具体的な計画を立てること 4)目標を実現するために必要な能力開発すること(または能力開発の方法を知ること) 5)実践的に行動すること
キーワード	①自己認識(性格や価値観) ②他者とのコミュニケーション ③社会における自己存在
内容(学生の学習内容と準備学習の内容を含む)	
<p><b>【1部】</b></p> <p>①イントロダクション・・・井原泰明 (内容)ライフステージにおけるキャリアデザインの考え方を学ぶ。キャリアデザインにおける大学生活の位置づけ、職業キャリアに向けての大学生活の位置づけを学ぶ。大学時代に身につけておくべき能力について学ぶ。(準備)シラバスを読み、講座の全体像を把握する。</p> <p>②働く目的と考え方・・・井原泰明 (内容)何のために働くのか(働くことを選ぶのか)、働く人が持っているべき考え方とは何かを知る。(準備)ハンドブックを読み、授業で何を学ぶか明確にする。</p> <p>③自己理解・・・西脇和彦 (内容)自己理解において注意すべきポイント、自己理解の方法を知る。(準備)ハンドブックを読み、授業で何を学ぶか明確にする。自分とはどのような性格でどのような価値観を持っているか、周囲の人に聞く。</p> <p>④自己理解シートを完成させる・・・西脇和彦 (内容)自己理解シートを使用して、総合的に自分を知る。(準備)ハンドブックを読み、授業で何を学ぶか明確にする。ライフステージについて、自分を知る方法について調べる。</p> <p><b>【2部】</b></p> <p>⑤クリティカル思考・・・井原泰明 (内容)正しく筋道を立てて考えるためには何が必要か、どのように訓練していけばよいかを示す。(準備)UPSHOWA上の授業資料を事前に読み、問題を解く。</p> <p>⑥コミュニケーションは社会のベース・・・野沢聡子 (内容)コミュニケーション(特に異なる世代とのコミュニケーション、異文化コミュニケーション)における重要事項を学ぶ。(準備)異文化コミュニケーション、他者の概念について調べる。</p> <p>⑦コミュニケーションスキル・・・野沢聡子 (内容)ノンバーバルコミュニケーション、協調的コミュニケーションについて学ぶ。(準備)ノンバーバルコミュニケーション、協調的コミュニケーションについて前もって調べる。</p> <p>⑧コミュニケーションスキル・・・野沢聡子 (内容)アサーティブスキルについて学び、トレーニングを行う。(準備)ハンドブックを読んでアサーティブスキルについて調べておく。</p> <p><b>【3部】</b></p> <p>⑨業界・企業・仕事の理解・・・西脇和彦 (内容)社会にはどのような仕事があるか、業界や企業、職種について学ぶ。公務員の仕事、自営業、民間企業の仕事の違い、雇用形態の違い等を学ぶ。(準備)総合職と一般職、正規社員と非正規社員、公務員と社員の違いについて調べておく。</p> <p>⑩組織人として働く(社会人基礎力)・・・首藤宣弘 (内容)社会や企業が求める人材とはどのような人か、求められる能力(資格やスキルを含む)とは何かについて学ぶ。(準備)ハンドブックに載せられている用語を調べておく。</p> <p>⑪インターンシップとNPO/NGO(チームワークとネットワーク)・・・首藤宣弘 (内容)在学中のインターンシップ、コミュニティサービスラーニング等の意義を学ぶ。また、市民社会における社会活動の紹介を通して、社会とかがかかわる重要性を学ぶ。(準備)コミュニティサービスラーニングについて調べる。</p> <p><b>【4部】</b></p> <p>⑫キャリアデザイン設計・・・井原泰明 (内容)ロールモデルを学びながら、キャリアデザイン設計をする。(準備)ハンドブックを読み、ロールモデルとなる人物について調べる。</p> <p>⑬キャリア・ディスカッション①・・・井原泰明 (内容)卒業後の進路を考え、自分らしく生きることを中心に具体的な進路(職業等)を描く。職業キャリアに関する希望、目標実現のプロセスを小グループで討議する。(準備)UPSHOWA上の授業資料を読み、授業テーマについて考える。</p> <p>⑭キャリア・ディスカッション②・・・井原泰明 (内容)ライフサイクルを踏まえ自己をキャリアデザインする。それぞれのライフステージにおける自分の夢とさまざまな集団(家族、地域、学校、職場、趣味グループ等)とのかかわりについて小グループで討議する。(準備)UPSHOWA上の授業資料を読み、授業テーマについて考える。</p> <p>⑮まとめ・・・井原泰明 (内容)レポートの作成提出(準備)学んだ内容をまとめておく。</p>	

科目名	女性とキャリア形成
担当者	坂東 真理子、渡邊 祐子
授業概要	キャリア形成のために必要な知識を得るとともに、主体的にキャリア選択ができるよう、グループディスカッションや、メンターの話や聞くなどの演習から学ぶ。
授業到達目標及びテーマ	授業を通して大学卒業後のライフコース、その中心をなすキャリアデザインを描く。
キーワード	(1)現代社会と企業 (2)ライフコース (3)キャリアデザイン
<p>内容(学生の学習内容と準備学習の内容を含む)</p> <p>(1)現代日本で働くということ(女性の生き方の変化)・・・坂東真理子(学長)・渡邊祐子 (準備)女性の生き方の変化と働き方の変遷を調べ、21世紀の女性の生き方を考える</p> <p>(2)女性労働の現状と女性管理職の状況・・・渡邊祐子 (準備)女性労働の現状と女性管理職の状況について、統計データを調べる</p> <p>(3)女性労働と法律・・・坂東真理子(学長) (準備)男女雇用機会均等法・育児介護休業法・次世代育成支援対策推進法・育児と介護の両立のうち、最低1つについて調べる</p> <p>(4)女性を支える社会保障-北欧型・アングロサクソン型・日本型-・・・坂東真理子(学長) (準備)エスピン・アンデルセン著『福祉資本主義の三つの世界』を読む</p> <p>(5)女性のキャリア・ディベロップメント・・・渡邊祐子 (準備)「キャリア開発」について、調べる</p> <p>(6)職場のメンタルヘルス・・・渡邊祐子 (準備)ストレスとは、メンタルヘルスとは何かについて調べる</p> <p>(7)パネルディスカッション:「メンター」(メンター話を聴く(数名のメンター))・・・渡邊祐子 (準備)UPSHOWAで本学メンター制度・メンターについて調べる。</p> <p>(8)コミュニケーションのためのボイストレーニング・・・宮崎絢子氏(宮崎絢子ボイストレーニングスタジオ)(担当:渡邊) (準備)ボイストレーニングについて調べる</p> <p>(9)適職の見つけ方・・・渡邊祐子 (準備)自分の強み・適性、自己理解の上になった適職を考える</p> <p>(10)職業人に必要な力・・・渡邊祐子 (準備)社会人基礎力、学力力、マネジメント能力について調べる</p> <p>(11)所得と賃金(税)・・・坂東真理子(学長) (準備)賃金構造基本調査からみた賃金格差、所得税、社会保険料、非正規社員、ニート、フリーターのうち最低1つについて調べる</p> <p>(12)グローバル化と日本の企業・・・坂東真理子(学長) (準備)通貨変動と輸出入、生産基地とマーケット、マイクロクレジット、BOPビジネス、フェアトレードのうち最低1つについて調べる</p> <p>(13)勤労倫理・有償労働・無償・・・坂東真理子(学長) (準備)プロテスタントの倫理、山本七平、石門心学のうち最低1つについて調べる</p> <p>(14)さまざまな職業・転職、誰のための会社か、何のために働くか・・・坂東真理子(学長) (準備)専門職、事務職、補助職、マネージャー、社会的企業とは、CSR、ガバナンスのうち最低1つ調べる</p> <p>(15)まとめ・・・渡邊祐子</p>	

科目名	女性の生き方と社会
担当者	森 ます美、秋山 久美子、伊藤 純、坂東 真理子、渡邊 祐子、天野 久実子
授業概要	現代社会における女性の労働と生活について学び、先輩OGをロールモデルとして、ライフコースを通じた自らのキャリアをデザインする。
授業到達目標及びテーマ	授業を通して大学卒業後のライフコース、その中心をなすキャリアデザインを考え、描く。
キーワード	①女性の社会進出 ②ビジネスフィールド ③キャリアデザイン
<p>内容(学生の学習内容と準備学習の内容を含む)</p> <p>I. 女性の社会進出と労働・生活</p> <p>1 現代社会における女性の労働・生活と本講義の目的          ……森ます美・秋山久美子(本学常勤教員)・渡邊祐子(本学非常勤講師)          (準備)シラバスを読み、履修の目的を明確化する。</p> <p>2 女性の社会進出と男女共同参画社会……坂東真理子(学長)          (目標)女性の社会進出の歴史を理解し、女性の多様なキャリアをサポートする真の男女共同参画社会の実現に向けての意識を醸成する。          (準備)関連する新聞記事を読み、質問事項を準備する。</p> <p>3 労働市場にみる女性の雇用……森ます美          (目標)今日の労働市場で女性雇用者が置かれた実態を把握する。          (準備)関連する新聞記事を読み、質問事項を準備する。</p> <p>4 女性のライフサイクルと多様な働き方……渡邊祐子          (目標)女性として満足のゆく人生を歩むうえでの困難とそれを乗り越えていくヒントを得る。          (準備)関連する新聞記事を読み、質問事項を準備する。</p> <p>5 共働き・片働き世帯の生活経営 一家計と生活時間からのアプローチ          ……本学准教授 伊藤純 (担当 森)          (目標)女性(妻)の就業が家庭経済・生活経営に及ぼす影響と実態を捉える。          (準備)関連する新聞記事を読み、質問事項を準備する。</p> <p>6 ワーク・ライフ・バランス(WLB)……森ます美          (目標)WLBの理念と国・自治体・企業の両立支援策の現状を知り、キャリアコースを描く。          (準備)関連する新聞記事を読み、質問事項を準備する。</p> <p>7 子育てと保育サービス……本学助教 天野久実子 (担当 森)          (目標)今日の子育て支援・保育サービスの現状の現状を知る。          (準備)今日の保育事情等を調べる。</p> <p>II. ビジネスフィールドと適職探し</p> <p>8 自己表現のためのボイス・トレーニング          ……宮崎絢子氏 (宮崎絢子ボイス・トレーニングスタジオ) (担当 森)          (目標)ボイス・トレーニングの意義・方法・成果を知る。          (準備)ボイス・トレーニングについて調べる。</p> <p>9 今、求められる人材……外部講師交集中 (担当 渡邊)          (目標)今、求められる人材像・能力(学士力・社会人基礎力)を学び、社会で活躍できる人材になるために、自分自身を日々磨いていく必要性を知る。          (準備)関連する新聞記事を読み、質問事項を準備する。</p> <p>10 広がるビジネスフィールドー仕事・会社の情報収集ー (担当 秋山)          ……田宮寛之氏 東洋経済新報社:前「オール投資」編集長          (目標)世の中に広がるビジネスフィールドについて理解する(業界将来性、有望企業とは)。仕事・会社を見極めるポイントを把握する。          (準備)関連する新聞記事を読み、質問事項を準備する。</p> <p>11 適職さがしー職業選択のアセスメントー……渡邊祐子          (目標)自分の職業適性を把握するツールを学び、それらを活用して適職候補を見つける。          (準備)関連する新聞記事を読み、質問事項を準備する。</p> <p>III. OGから学ぶキャリア</p> <p>12 OGから学ぶキャリアー民間企業ー ……本学OGメンター 2名 (担当 秋山)          (目標)身近なロールモデルからキャリアデザインを形成するヒントを得る。          (準備)UPSHOWAで本学メンター制度・メンターについて調べる。</p> <p>13 多様なキャリアコースー再就業・フルタイム型・起業ー          ……本学ブラッシュアップ キャリア塾(「ママチャレ」)修了生 2名 (担当 森)          (目標)中断再就業を経験したロールモデルからキャリアデザインを形成するヒントを得る。          (準備)本学HPでブラッシュアップ キャリア塾について調べる。</p> <p>14 OGから学ぶキャリアー公務員ー ……本学OGメンター 2名 (担当 渡邊)          (目標)公務部門で働くメリットを学び、キャリアデザインを形成するヒントを得る。          (準備)UPSHOWAで本学メンター制度・メンターについて調べる。</p> <p>15 まとめ……秋山久美子・渡邊祐子          (目標)本講義で学んだことを整理・確認し、今後のキャリアデザイン、人生に活かす。          (準備)自分のキャリアデザインについて考ておく。</p>	

科目名	企業と社会のルール
担当者	粕谷 美砂子、坂東 眞理子、渡邊 祐子
授業概要	企業と雇用に関する法令や制度を理解し、社会人として役に立つ知識を養う。雇用情勢、労働法規、社会保険(保障)、人事制度、女性の人権、会社の仕組み、社会貢献等について学ぶ。
授業到達目標及びテーマ	①女性の社会進出に関する環境の変化、関連法令を理解し女性としてのポジションを認識する。職場環境から身を守り、生き生きと働ける自己の前向きな姿勢を喚起するとともに、対応策を身に付ける。 ②職場環境と心の積極的健康へ向けた労使の取組を理解する。 ③企業の仕組みと現在の諸問題について学び、即戦力となる企業人に向けた常識、教養を高める。
キーワード	①企業 ②雇用 ③ルール
<p>内容(学生の学習内容と準備学習の内容を含む)</p> <p>準備学習として、各回のキーワードについてあらかじめ各語の意味するところを把握しておくこと。</p> <p>①オリエンテーション 女性をとりまく社会のルール:女性の社会進出、仕事と家庭など、女性の職場環境の変化を知り、仕事への前向きな姿勢を喚起する。 [準備]キャリア設計</p> <p>②リアリティショック:女子学生の職業キャリア志向と働く女性のキャリアとの違い、および職場における理想と現実とのギャップに対する対処策とは</p> <p>③労働法規① 労働基準法、労働安全衛生法、労災保険、労使双方の権利・義務を知る</p> <p>④労働法規② 労働基準法、労働安全衛生法、労災保険、労使双方の権利・義務を知る [準備]労働基準法、労働安全衛生法</p> <p>⑤社会保険と年金:社会保険制度(雇用保険・健康保険・厚生年金・国民年金) [準備]社会保険制度</p> <p>⑥人事制度と女性の処遇 [準備]人事制度</p> <p>⑦女性就労支援の展開(育休・ポジティブアクション):日本企業の人事制度の変遷、女性の処遇に関する法令ならびに企業の取組等についての理解を図る。 [準備]育休、ポジティブアクション</p> <p>⑧職場環境とメンタルヘルス:労働安全衛生法の変遷と、今日的課題を理解し、労使双方の権利、義務を知る。 [準備]労働安全衛生法、メンタルヘルス</p> <p>⑨セクハラ・パワハラと女性の人権:職場での諸問題の実情と回避策等とは [準備]セクハラ、パワハラ</p> <p>⑩会社の仕組み:資本、株主・株式の仕組み、組織管理の概要を学ぶ [準備]資本、株式の仕組み</p> <p>⑪コンプライアンス:法令遵守/企業の倫理綱領/情報管理(個人情報管理・プライバシーマーク) [準備]コンプライアンス</p> <p>⑫ガバナンス:企業統治の理論と実際 [準備]企業統治</p> <p>⑬企業の社会貢献:企業価値の創造、社会的責任(CSR) [準備]CSR</p> <p>⑭市民としての社会貢献:市民としての活動/ライフキャリアレインボー 職業人以外での自分の役割を認識し、ライフプランの中で具体化を描く [準備]社会貢献活動</p> <p>⑮まとめ</p>	

⑧情報誌の発行



評 価 結 果

評 定 : S

評定理由(総論)

就職活動に必要なスキルアップ講座を3カ年で40講座を開設し、受講学生の満足度もかなり高い。また、キャリア・コア科目(単位科目)4科目を開設し、大学長自らが担当者としてリードしている。結果的に全国平均を上回る就職率(94%)を達成している。

本プログラムにおいて、学生が経済・雇用情勢の急変に翻弄され疲弊することを予防・軽減するという現代社会の課題に焦点をあて、学生の就職力をアップさせ、就職率の向上を図るという視点での取組が特に優れている。

今後もこのプログラムを継続して実施していただき、自分自身のキャリアをしっかりとイメージでき、主体的に社会に関わりながら将来を考えることができる学生を育てていただきたい。さらに全卒業生の

就職(進学)への意欲の向上を図り、就職率の更なるアップに向けての支援策へ取り組んでいただきたい。今後も自己点検評価をさらに徹底することが望まれる。

## 実地視察報告

視察日：2012（平成24）年9月28日（金）



## 総評

社会状況の悪化・急変に対する学生の戸惑い、学生のキャリアや生き方に関する強い危機意識が学長以下全学的に共有され、支援プログラムが全学的にも部局レベルでも自覚的に検討され、改革が正課内・正課外ともに継続的かつ多面的に進められており、その成果も適切に学生のみならず企業や社会全体に発信されている取組であり、他の大学のモデルとすべき事例である。

特に就職活動で必要とされる、スキル習得に特化したスキルアップ講座とキャリア支援科目群が適切に配置されており、在学中全期間を通じて、多様な機会の中でキャリア意識の涵養が図られている点は高く評価しうる。

また、就職NAVIのシステムは単に就職情報を提供するだけでなく、相談予約や関連データの蓄積を通じて、個別支援をカウンセラーや担当職員が複数で実現できる状態になっており、専門カウンセラーの充実と併せて、相談対応の充実、件数増加に繋がっており、本事業の趣旨が十分に実現されている。

## 個別事項

## 1. 正課内でのキャリア支援科目群とスキルアップ講座の充実

- ・就職活動に直結するスキルアップ講座を40講座開講しており、受講生の満足度も高く、成果を上げている。
- ・自分らしい生き方と職業を発見し、生涯にわた

る「キャリア」をデザインする力量修得を目指して体系化された科目群を2009(平成21)年度から2011(平成23)年度にかけて設置し、かつ毎年改善を図っている。1年時の必修科目「実践倫理」から学年ごとに女性の生き方・キャリアを学ぶ選択必修科目群が編成されており、キャリア支援を正課教育内でも適切に実施できている状況が示されている。

- ・本事業の成果を踏まえて、2012(平成24)年度からは全学および全学科ごとに「キャリアデザイン・ポリシー」、および学科ごとの「目指す職業と履修モデル」を公表して、学生自身の履修意欲の涵養に努めている点も高く評価できる。

## 2. キャリア支援センターを中心とした支援活動の充実

- ・キャリア支援センターを中心とした支援活動は相談を中心としたface to faceの個別支援と、新設された情報NAVIと呼ばれる総合的支援システムの活用による、情報の提供や蓄積といった支援とが効果的に編成されている。また、進路情報の登録を積極的に推進し、卒業生と学生との交流の場を設ける取組はすでに学生に肯定的な影響を及ぼしており、今後も拡充が期待される。
- ・専門カウンセラーの増員により、増加している相談需要に適切に対応しており、対応した相談件数は2009(平成21)年度の2,455件から2011(平成23)年度には4,337件へと1.77倍へと増加している。
- ・従来の紙ベースの職業支援システムから、求人NAVIと呼ばれる職業支援専用サイトの立ち上げ・運営によって、個別学生の活動状況、支援の

必要性と提供状況が適切に関係者内で共有されるとともに、個別学生に必要とされる求人情報がメール配信も活用して即時に提供されている。こうした重層的な取組を通じて、事業期間内の就職率は2009(平成21)年度の94.3%から2011(平成23)年度には97.2%まで高くなっており、取組の成果を確認することができる。

- ・就職NAVIの利用を通じて、就職活動がうまくいっていない学生を把握できるようになり、学科ごとに配置された担当職員が個別支援を図れるようになっている点も注目される。

### 3. 全学体制の充実と学内広報の徹底

- ・キャリア支援に関する検討を学科代表によって編成されているキャリア支援部委員会とキャリア支援センターの間で綿密に行っている点も、全学的な支援体制の構築という点で評価できる。
- ・学生に対して各種取組の紹介とキャリア意識涵養を意図した就職情報誌「リュミエール」を2号刊行して、情報を周知した取組も、学生にとって有意義な効果があったものと評価できるものである。